

# 清流

## 「清流」への思い

85…この数字は、これまでの2年間に発行してきた学校便り「清流」の通算発行数です。したがって、今回の「清流」が通算第86号ということになります。実は、前任校でも同様の学校だよりを3年間発行してきました。こちらの通算発行数が132号でした。合計した5年間での通算発行数は217号になります。校長になったら、「これだけは続けよう」と心に決めていたので、この5年間それができたことで、少しは自分を褒めてあげてもいいかなと思っていますところす。

今回は、本校2年目も終わりに近づいたところで、この学校便り「清流」への私の思いを書かせていただきたいと思ひます。

この学校便り「清流」は、私の「思い」「願い」「感じたこと」「考えていること」等を保護者の方々や地域の方々にお伝えして、できれば、それらを共有して、甲佐小学校の子どもたちの健やかな育ちの一助にしていきたいと考え発行してきました。そして、お読みいただき、内容についてご意見をいただいたり、お話をしたりすることで、私たちの意識が高まり、子どもたちに返すことができるとも考えてきました。そんな「清流」ですが、実はいくつかの視点を持ち、それらを伝えたいと考え書いてきました。それは、以下のようなものです。

- 私が思っていること、願っていること、感じたこと、考えていること
- 子どもたちの光る場面(保護者や地域、教師の光る場面も…)
- 日々の生活の中で見つけた、ちょっと心温まる話や場面(本やメディアからの情報も含め)
- 自分の経験も踏まえ、子育てについて大切なこと
- 町教委や学校が進めようとしていること  
(コミュニティ・スクール【学校運営協議会】、ICT活用教育、学力向上等)
- 学校側から発信しなければいけない内容(学校経営方針、学校評価結果、学力検査の結果等)
- 学校側から啓発するべき内容(人権教育、特別支援教育、いじめ防止等)

そして、それぞれの通信を単発に終わらせず、様々な広がりを目指してきました。さらに、こだわっていたのは、「言行一致」という言葉です。この言葉は、私が仕事をしていくうえでも、生きていくうえでも一番こだわっている言葉です。「自分が日頃口にしていることと実際の行動にずれはないのか」この視点は、私が自分の姿を客観的に見るとき、一番重要な視点としてもってきたものなのです。その視点から見れば、「清流」は「自分が日頃口にしていること」の部分なのです。ですから、書いたことは自分の行動とつながっていることが必要でした。言い換えれば、この「清流」で書いた内容が、私の校長としてのやるべきこととつながっていたのです。

その典型的な例は、1年目の11号「自尊心と他者意識」の記事で書いた「甲佐小の四つのあ」の取組です。この取組は、今年度の14号で書いた「one by one プロジェクト」等へ様々な広がりを感じながら現在まで続いています。また今年度の24号で、やってみたいこととして書いた「通学合宿」は実現もしましたし、構想は1年目からもっていたものです。

このように校長としての職務を進めていく上で、この「学校だより」をととても大切にしながら取り組んできた2年間でした。

今後も本校で2年間、そしてこの5年間、もち続けることができたこれらの思いを大切にしながら、自分の責務を全うしていきたいと思ひます。